

## 全日中事務局だより

▼昨年十二月八日、「質の高い教師の確保のための教職の魅力量上に向けた環境の在り方等に関する調査研究会」が設置された。文部科学省初等中等教育局財務課が庶務取り扱いとなっている。

▼検討期間は令和四年十二月二十日から令和五年十二月三十一日までとしている。

▼設置された背景には、DX、少子化等の社会変化を踏まえ、新たな学校教育が求められている中、それを担う質の高い教師を確保するため、教職の魅力量上を図る必要の高まりがある。

▼こうした中で、学校における働き方改革の様々な取組と成果等を踏まえつつ、令和四年度の教員勤務実態調査の結果等を踏まえ、給特法（※）等の法制的枠組みを含めた処遇等の在り方を検討することとなった。

▼令和五年春頃に予定される教員勤務

実態調査の速報値公表後、円滑な検討を行うため、給特法等の関連する諸制度をはじめとする検討事項に係る所要の情報収集や論点整理を進める必要があることから、設置されたものだ。

（※）公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法（昭和四十六年法律第七七〇号）

▼この調査研究会としての検討事項は、教員勤務実態調査の結果等を踏まえ、スムーズな検討に入れるよう諸外国の状況を含む情報収集や論点整理を進めながら、次の四点について、検討していくことが確認されている。

- ①給与面、公務員法制・労働法制面の在り方について
- ②学校における働き方改革に係る取組状況や学校・教師の役割について
- ③学校組織体制の在り方等について
- ④その他

▼昨年十二月二十日に開催された第一回調査研究会では、次のような意見が

出された。代表的な意見を紹介する。

○今回の議論にあたっては、給与のみならず、勤務制度や教職員定数、支援スタッフ、働き方改革、業務改善等を含めて一体的に検討を進めていく必要があるのではないかと。

○政策や制度に関して文部科学省の役割が大きいことは確かだが、任命権者及び給与負担者でもある都道府県、また、服務監督権者及び学校の設置者である市町村の果たすべき役割も大きいということを、改めて確認しておくべきではないかと。

○学校現場からは、教育の質を担保しながら働き方改革を進めていくには、限界が近づきつつあるという声もある。このような声に対して、教育委員会等による具体的な支援の在り方についても問われているのではないかと。

○文部科学省において、定数改善や支援スタッフの配置充実のための予算

を確保しており、重要なことであるが、人材確保のためには、教師や支援スタッフを増やすだけでは必ずしも十分とは言えず、育成制度の一層の充実も重要ではないか。

○諸外国の制度を踏まえても、全ての教師が納得する給与制度を作ることには難しいのではないか。また、教師の業務の特殊性や専門性を発揮するためには、子供たちと関わる必要だが、関わる時間を増やそうとすれば在校等時間の短縮と逆行する側面もあって悩ましい。学校として様々な業務改善に取り組んでいるが、学校単位、教育委員会単位でできることには限界もあるのではないか。

○今後、給特法の見直しを考えていく上では、時間外勤務かどうかの判断基準や、それを校長が承認するとなった際の事務的な手続き等も含め、非常に課題が多いのではないか。

▼また、当日、文部科学省国立教育政策研究所初等中等教育研究部長の藤原文雄氏からは、「教員給与と教員の業務に関する諸外国の動向」という資料が提出された。これは、大きく次の四点に集約された資料である。

①勤務時間数規定の種類

・諸外国において勤務時間数はどう規定されているのか

②諸外国における超過勤務に対する処遇

・諸外国において超過勤務に対してどう処遇しているのか

③学校（場、学校組織）及び教員が担う職務

・日本の教員の業務分担（教員間、多職種間）はどのような現状か

④勤務時間管理の前提としての教師像  
・専門職性を高める方向の教員養成改革とどう整合性をとるか

▼特に、この資料の中で「OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）2018」にお

ける教師の仕事時間（中学校、通常の一週間）や「諸外国における教員の役割」の資料は興味深い。例えば、後者の資料からは、私たちが当たり前の業務としてやってきたことが、他国では教員の業務ではないことが記されている。まさに、目から鱗の心境だ。

▼この資料は文科省のHPからダウンロードできるので、ぜひ、会員の皆様には一読していただきたい。

▼今後、給特法の見直しや残業手当の在り方についての議論も進んでいくこととなるが、いずれにしても、質の高い教師を確保するためには、教員としての業務の見直しとともに、教員定数の見直しも根本的に議論して欲しいと思う。そのためには、国としての財政的な支援が最も重要な柱になることは避けられない。

（事務局長 富士道正尋）